清軍伊犂を定むるに及び、霍集占遁れて葉爾羌に歸り、遂に清國に叛きて庫車城を保つ。乾隆二十三年（千七百五十八年）將軍雅爾哈善、滿漢の兵一萬餘を率ゐ、吐魯番より進んで庫車に向ひ、直に其城を圍む。麾下の將會、良策を献ずる者あるも、雅爾哈善、耳を借さず、日々博奕を事とし、戰遂に利あらず、且つ大小湖査を逸せしめたり。高宗怒つて雅爾哈善等を誅し、更に將軍兆惠に命じて軍を移し湖査を討たしむ。時に

兩湖査の滅亡

雨湖査は走りて阿克蘇に據れり。

將軍兆惠の庫車に着するや、小湖査霍集占は葉爾羌に、大湖査布那敦は喀什噶爾に奔る。兆惠先づ霍集占を討つて利なく、因て援軍の到るを待ち、翌二十四年大舉葉爾羌城を圍むも、未だ陷る能はず、二十五年兩湖査其の敵すべからざるを察し、各、城を棄て葱嶺を超へて西走す。

清軍追擊連日に及び、遂に彼等を巴達克山（バダクシヤン）に圍む。巴達克山の酋長、兩湖査を斬り、首を函して軍門に送れり。是に於て兩路盡く清國の版圖に屬し、其の新なる疆を擴げしの意に基きて新疆と名づけ、伊犂、塔爾巴哈臺、烏魯木齊、喀什噶爾の四鎮を建て、參贊大臣、辦事大臣及領隊大臣等を設け、大小相統屬して各々其の方面の諸城を

新疆と改名す